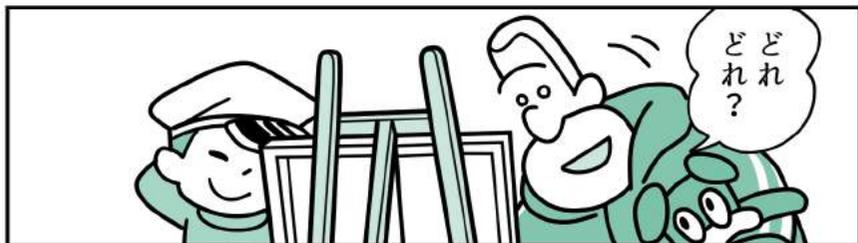
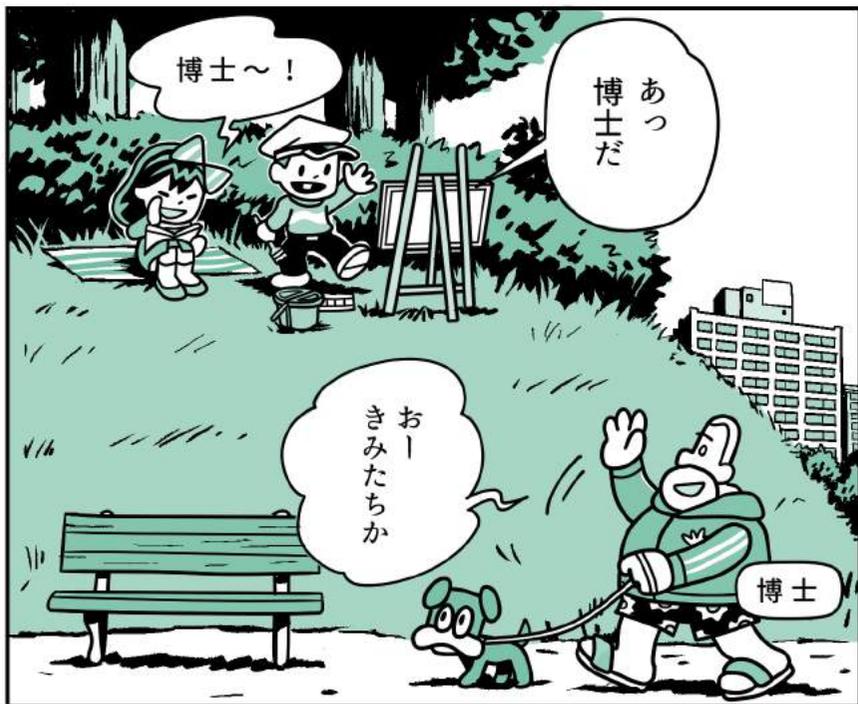


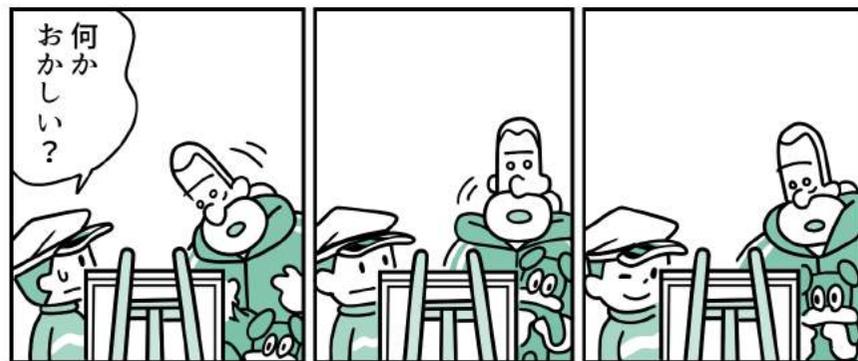
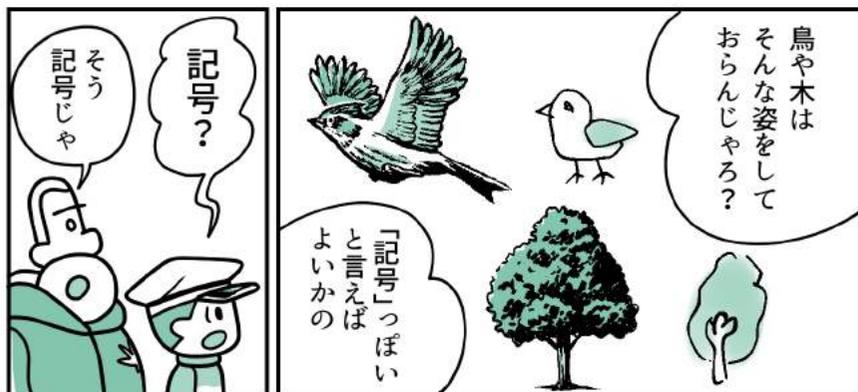
学習まんが
記号とアブダクション



原作・監修
大林寛

まんが
コルシカ





このマークが「記号」として存在するには、



トイレのマーク

実際にいる男女と関係しなければならん



実際の男女

これを「対象」と呼ぶんじゃない

こっちを
使えば
いいのか



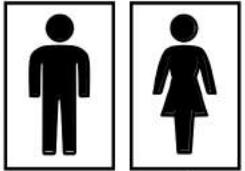
解釈する

それでやっとならば
トイレを使える

つまり解釈したわけじゃない

これを「解釈項」と言う

しかし、このマークだけでは何の意味も持たない。ただの色と形にしかすぎんじや



意味がないと困っちゃう!

えっ



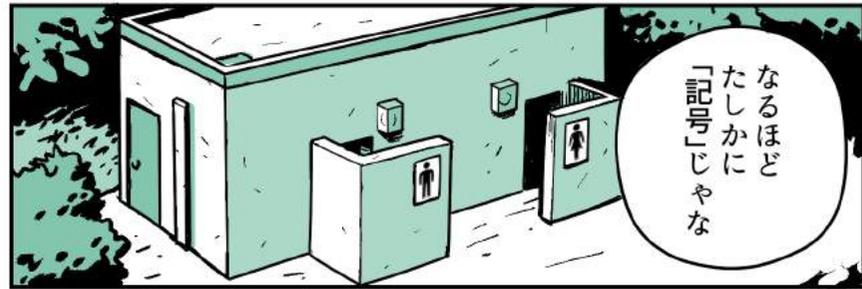
①きごうの3つのプロセス



ところで耕太くんはどんなものを記号と考えるかおるかな?

うーん

あそこのトイレのマークとか?



なるほどたしかに「記号」じゃない

このように3つの段階を経てはじめて記号として成立しておる

これを「記号過程」と言うんじゃない

解釈項



記号



対象

記号過程

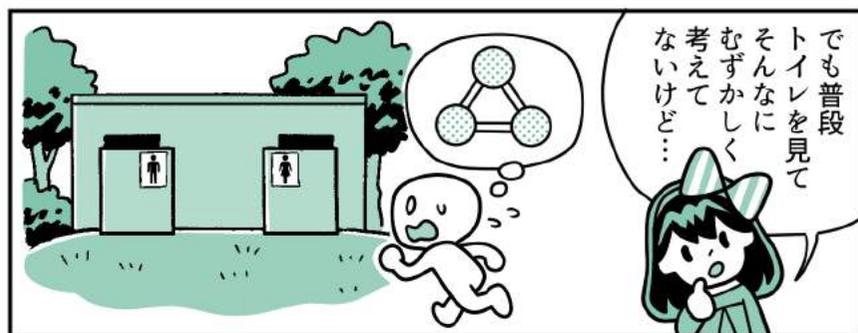
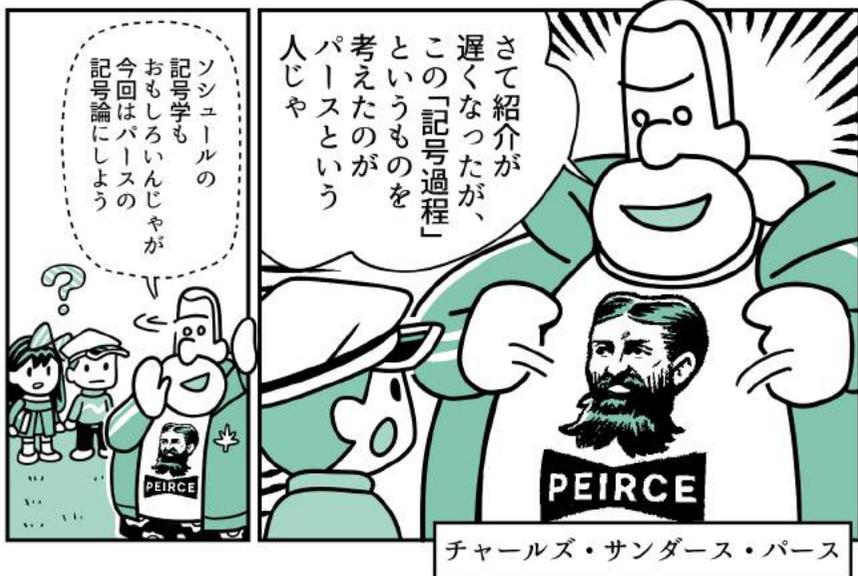


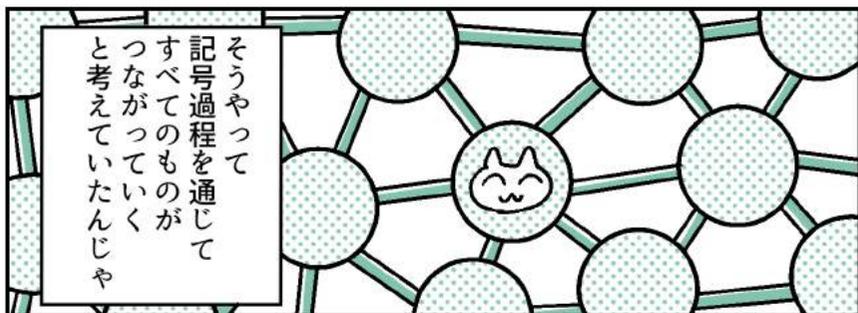
わっ三角になった!

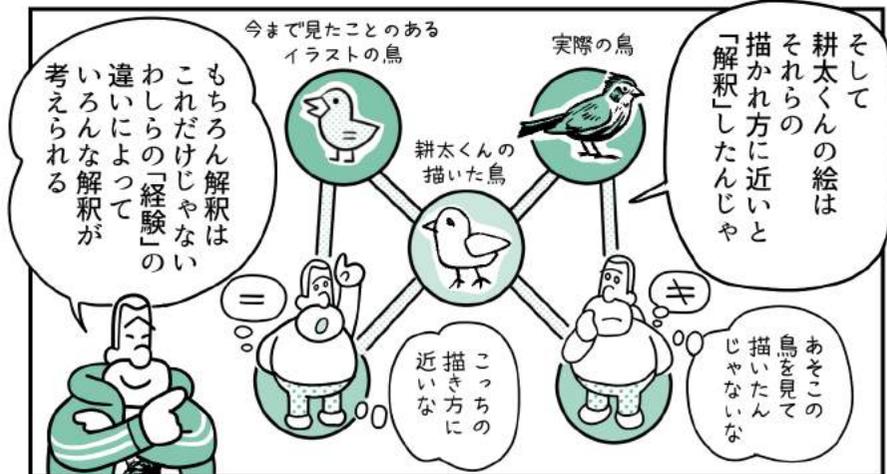
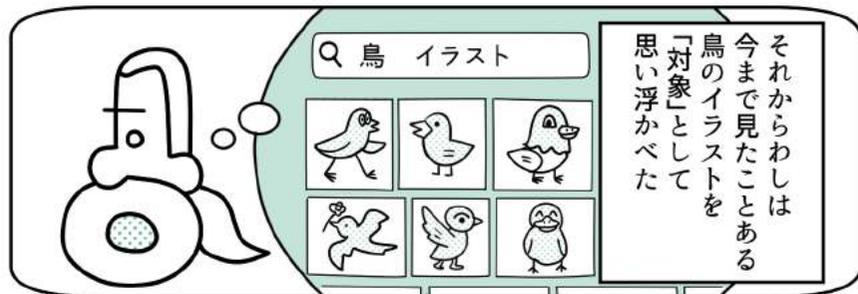
うーん



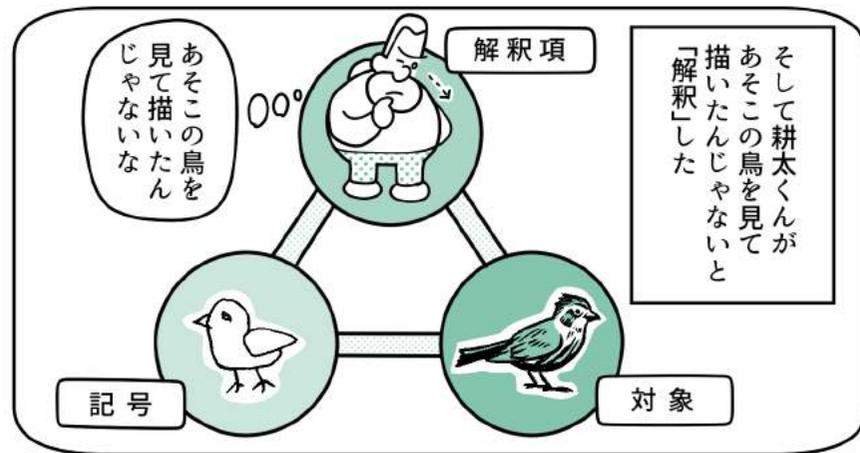
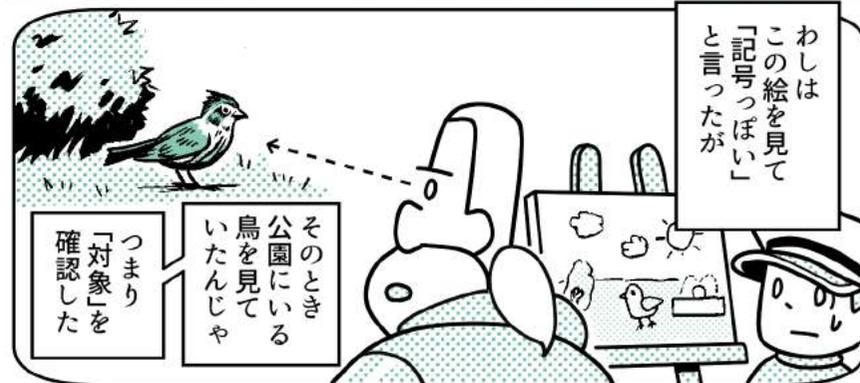
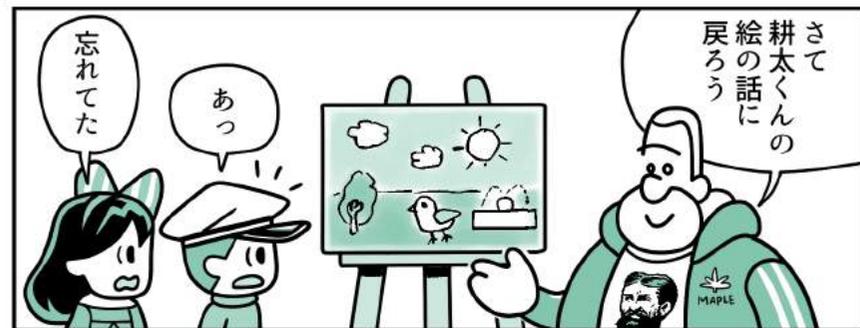
② パースのきごうろん

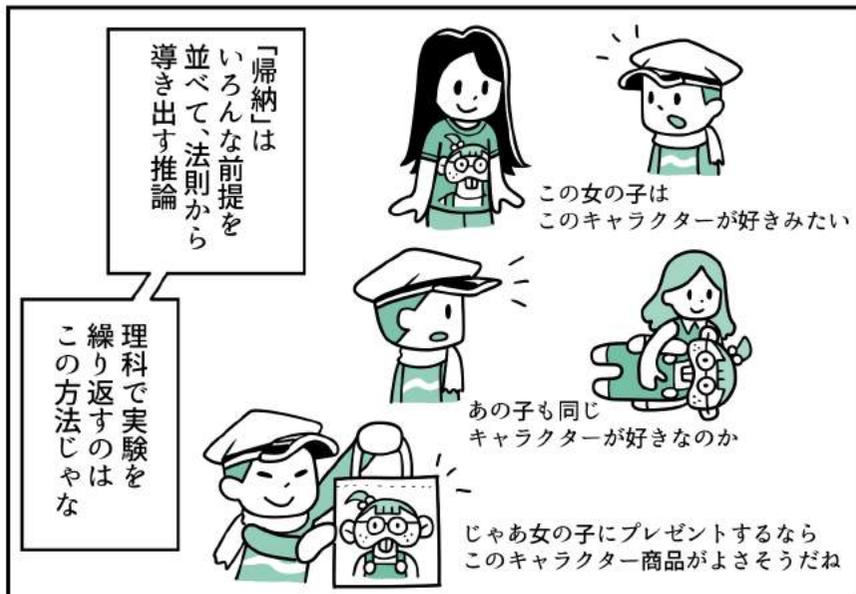


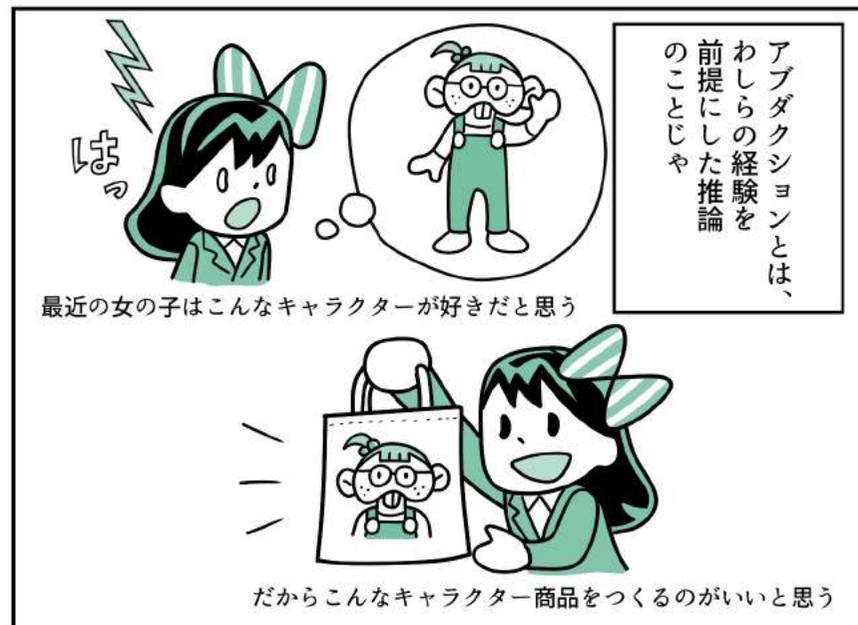
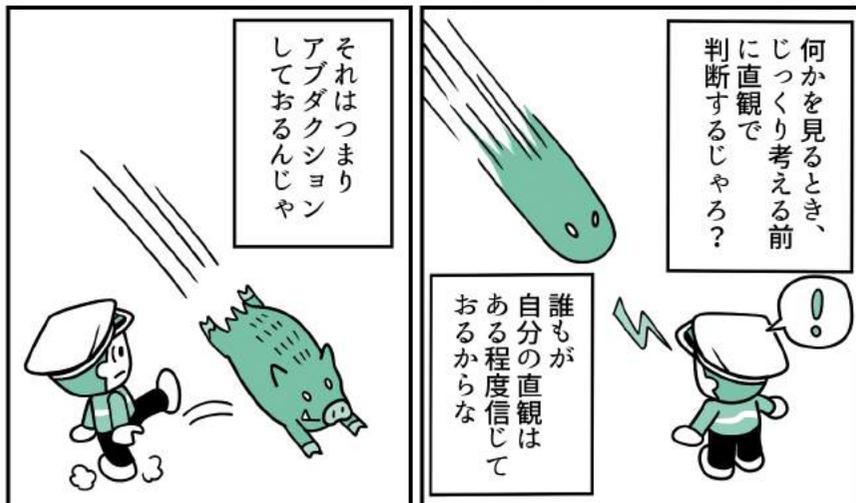
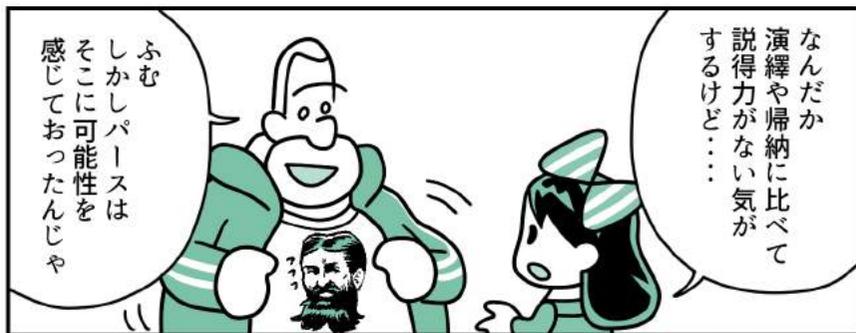




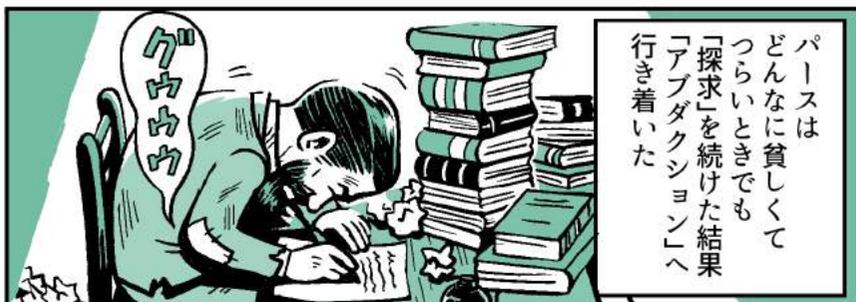
③ すいろんとアブダクション







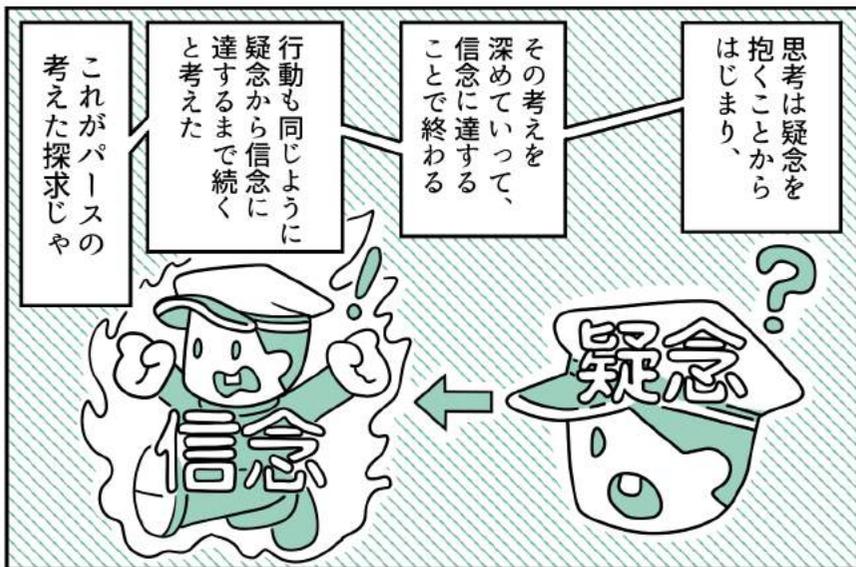
④ うちゅうへのたんきゅう



パースは
どんなに貧しくて
つらいときでも
「探求」を続けた結果
「アブダクション」へ
行き着いた



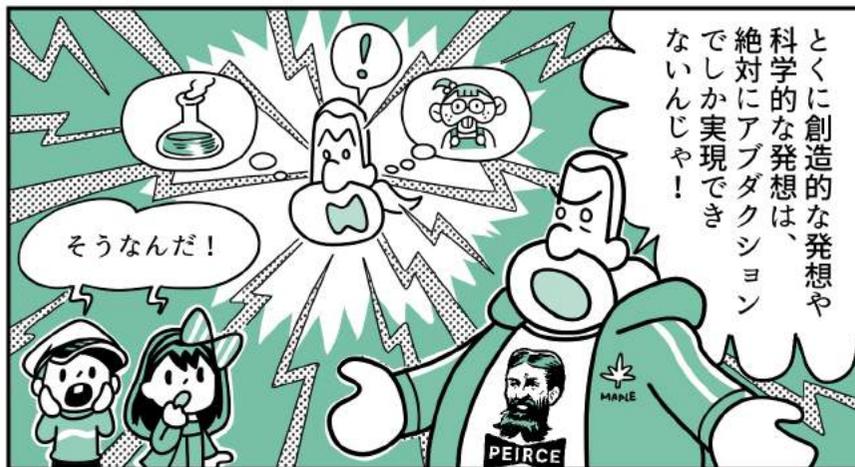
彼は探求を、
思考から行動へと
向かうものだと
考えておった



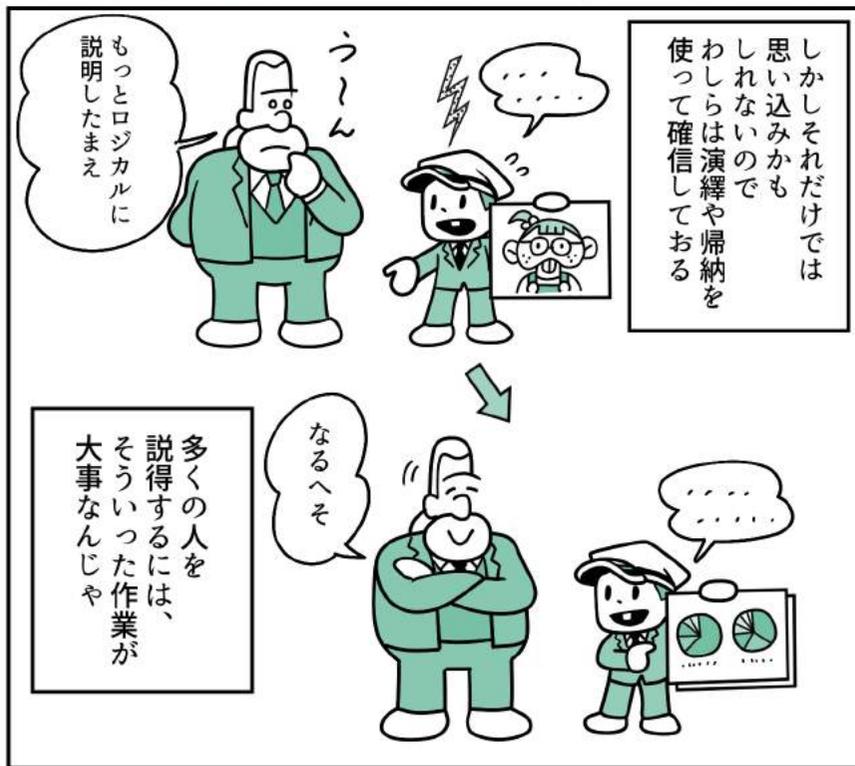
思考は疑念を
抱くことから
はじまり、

その考えを
深めていって、
信念に達する
ことで終わる

行動も同じように
疑念から信念に
達するまで続く
と考えた



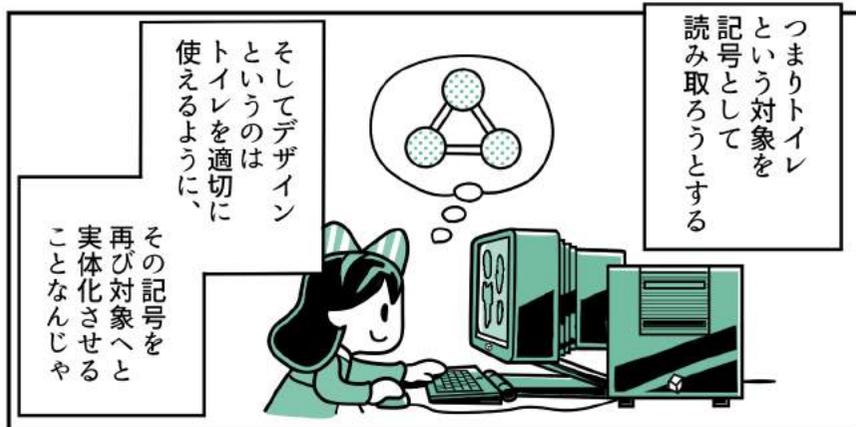
とくに創造的な発想や
科学的な発想は、
絶対にアブダクション
でしか実現でき
ないんじゃないか!



しかしそれだけでは
思い込みかもし
れないので
むしろは演繹や帰納を
使って確信しておる

多くの人を
説得するには、
そういった作業が
大事なんじゃないか

なるへそ



つまりトイレ
という対象を
記号として
読み取るようにする

そしてデザイン
というの
トイレを適切に
使えるように、

その記号を
再び対象へと
実体化させる
ことなんじゃ



絵を描くときにも
いろんな経験によつて
得た知識があれば
それが役立つ

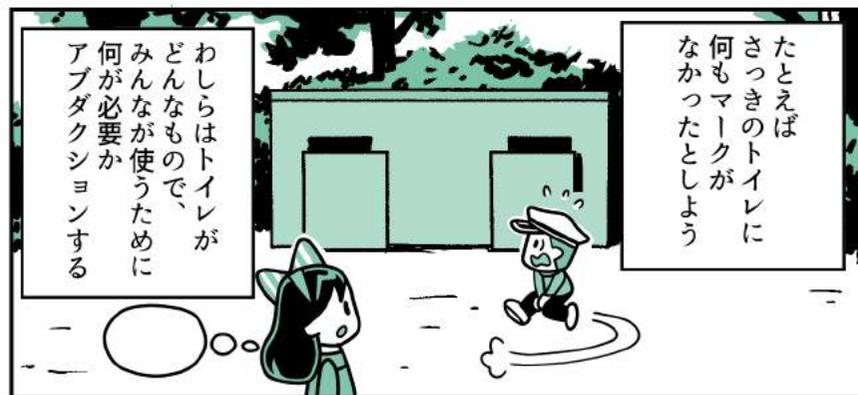
自分だけの
発想ができるように
なれば、きみらは
もつとおもしろいもの
を生み出せるように
なるはずじゃ



アブダクションは
こうしたパースの
探求の思想
そのものじゃ

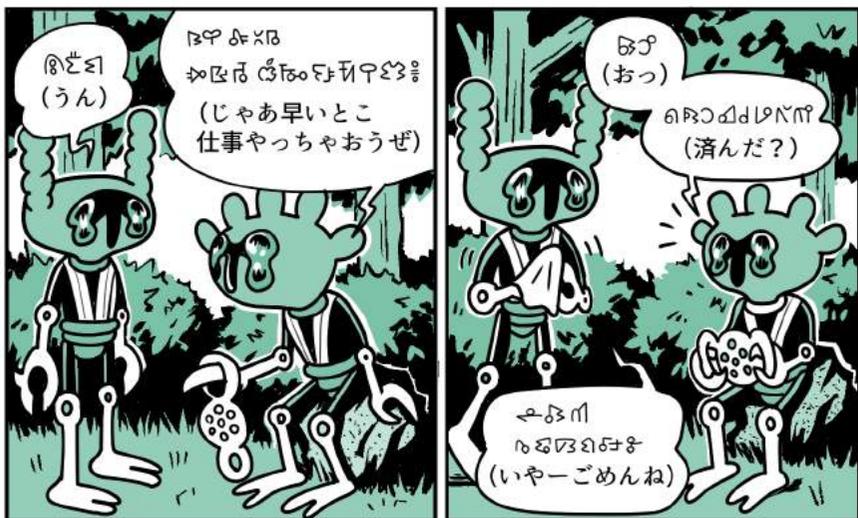
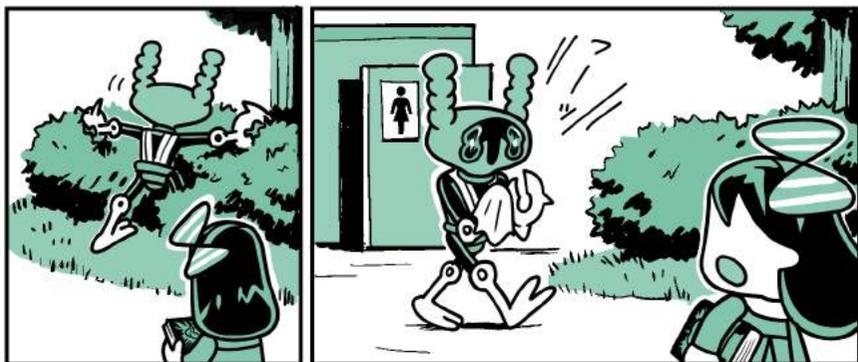
アブダクションは
解釈から記号を
導く力になる

つまり、経験を
通じて知った
ものが解釈となり
それによつて
記号を作り
出しておる



たとえば
さっきのトイレに
何もマークが
なかったとしよう

わしらはトイレが
どんなもので、
みんなが使うために
何が必要か
アブダクションする





おしまい

おうちの方へ

この学習まんがは、パースの記号論とアブダクションを身近に感じてもらい、新しい視点を持つきっかけになることを目指しています。つまり、前回の学習まんが「アフォーダンス」と同じ目的で制作されました。

今回「記号とアブダクション」というテーマを選んだのには、二つの理由があります。

ひとつは、記号とアブダクションのいずれもが、デザインに深く関わる概念だからです。パースの術語を使うと、ある「対象」を「記号」として「解釈」するのがアブダクションで、その「記号」から新たな「対象」を導き出す作業がデザインになります。また語源としてもデザイン(design)は脱「記号(sign)」化を目指す作業とされていて、アブダクションはそこへ向かう思考と言えるでしょう。そこで本作では、記号とアブダクションを同時に取り上げて、わかりやすく伝えたいと考えました。

もうひとつの理由は、パースの理論が、言葉の定義を暗記するよりも、流れをイメージしながら把握することに向いているからです。本編にあるとおり、パースは記号をプロセスと考えていました。またパースが遺品として残した大量のスケッチからも、彼が構造と力動を中心に、現象を見ていたのがよくわかります。学習まんがという形式は、そうした動的なイメージを把握するために、最適なのではないかと考えました。

今回伝えたかったイメージは、パースが構想したほとんどの理論の基本体系である、現象学の三つのカテゴリー(第一次性・第二次性・第三次性)に集約されます。第一次性は〈存在〉そのもので、意味が不在の独立した「点」。さらに第二次性では、それが別の「点」と〈関係〉を結んで「線」になります。そして第三次性では、その〈関係〉を解釈することで、〈意味〉のフィールドのような「面」ができる。こうして現象は結晶のように連なっていくのです。

言葉だけではわかりにくいですが、そのイメージはさほど難解ではありません。三位一体や弁証法(テーゼ・アンチテーゼ・ジンテーゼ)などの三分法が、ネットワーク状に生成されていくものと言えば、すこしいメージが共有できるでしょうか。

とにかくパースは、世界を論理的に把握しなければならぬと考えていました。その動機は、世界を解明しなかったからではなく、人が責任ある制度をつくるために、摂理を知っておく必要があると考えていたからです。先ほどの三つのカテゴリーのイメージは、彼が世界の摂理として確信したものでした。

パースの方法で世界を眺めると、そこには多くのまだ見ぬ〈存在〉があり、それらが〈関係〉として結びついて、新しい〈意味〉が生まれるかもしれない。この無限の可能性を、思考や行動といった人間の根源的な活動に見出したところが、パースの魅力ではないでしょうか。本作でそれがすこしでも伝わるなら、とてもうれしく思います。

第一次性



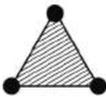
〈存在〉

第二次性



〈関係〉

第三次性



〈意味〉



伊藤邦武『パースの宇宙論』

パースの遺稿の断片を、宇宙論として縫い合わせた仕事。「一、二、三」というカテゴリーの乗り物で旅する、哲学紀行文といった趣きです。

米盛裕二『パースの記号学』『アブダクション—仮説と発見の論理』

日本のパース研究第一人者による2冊で、今回のテーマにも対応しています。入門書というには手強いですが、パースを論理学として丁寧に紐解いています。



魚津都夫『プラグマティズムの思想』

パースを初めとするプラグマティズムの系譜がコンパクトにまとめられた本。パースのところは「探求」をテーマの中心に、後期まで包括して取り上げています。

田中久美子『記号と再帰』

パースとソシュールの記号理論とプログラミング言語の相似性を考察した意欲作。記号に関する書籍では、群を抜いたおもしろさ。

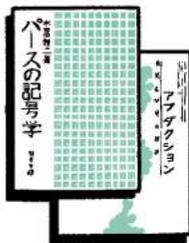


マックス・ベンゼ『情報美学入門—基礎と応用』

記号からデザインへと真っ直ぐに延びた線。パースの記号論とシャノン=ウィーバーのコミュニケーション論によって体系化された情報美学の基本図書です。

田島節夫『記号論と現象学』

すこし古い本ですが、パースの記号論を皮切りに、フッサールやライプニッツから言語行為論のオースティンまで、タイトル通り見事にまとめられています。



記号とアブダクション をもっと知るために

この漫画で、パースの記号論やアブダクションに興味を持って、さらにくわしく知りたくなった方に、参考書籍を紹介します。



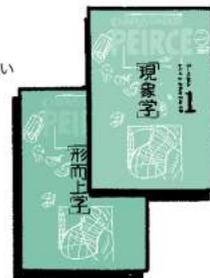
パース著作集『現象学』『記号学』『形而上学』

パースの著作から、各テーマに該当する論文を抜粋したものを。まるで油絵を描くように、パースが何度も理論を重ね塗りしていたのがわかります。



パース『連続性の哲学』

1898年の講義録からの抜粋で、パースの思想をイメージとして把握する上で重要な「連続性の論理」を所収。彼の幾何学的な思考を追うことができます。



ジョセフ・ブレント『パースの生涯』

人に関心がなく孤独で自堕落だったパースを、ダンティズムという観点でボードレールに重ねた伝記。人間パースに興味を持つ方には、とてもおもしろいと思います。



有馬道子『パースの思想』

言語論的な側面からパースに迫った研究書。著者の言葉でパースの理論を解説する第一章が、大きな理解の助けになります。



この学習まんがは、「ÉKRITS / エクリ」のWebサイトでもお読みいただけます。

ÉKRITS エクリ 〈思想としてのデザインを、デザインされたテキストへ〉

ekrits.jp

作者情報

大林 寛 / Hiroshi Obayashi

「ユーザーとの関係を観察し、経験の質を考えデザインする」設計事務所、株式会社 OVERKAST (overkast.jp) 代表。
「ÉKRITS / エクリ」(ekrits.jp) 発行人。書籍『Intertwined: 錯綜する世界／情報がすべてを変える』監修。
東洋美術学校クリエイティブデザイン科 UX デザイン講師。

コルシカ / Corsica

漫画家、商業イラストレーター。1983年東京生まれ中野区まんだらけ育ち。美学校「絵と美と画と術」第七期生。
学習まんがの再興をささやかに画策中。
漫画家コルシカのページ <http://corsicadayo.tumblr.com/>

学習まんが「記号とアブダクション」

2016年10月23日 初版第一刷発行

著者 大林 寛 (原作・監修)
コルシカ (まんが)
発行・編集 株式会社オーバーキャスト エクリ編集部
<http://ekrits.jp/>
印刷 レトロ印刷 JAM

© 2016 Hiroshi Obayashi / Corsica (Keisuke Kuno)
Published by Keisuke Kuno
Printed in Japan

本書は、著者によって学校教育のための非営利目的での利用が認められています。この利用法及びその他著作権法で認められた例外を除き、本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、禁じられております。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ教育現場、個人や家庭内での利用を目的とする場合でも、著作権法違反となります。

本書についてのお問い合わせは、以下のページより、エクリ編集部までお寄せください。
<http://ekrits.jp/contact/>